

重点分野の目標の達成状況

- ①海外からの環境技術視察・研修の受入人数：現状（2009年度1,143人）より増やすこと ⇒774人
- ②環境に係る国際会議・イベント等実施状況 ⇒川崎国際環境技術展等の実施
- ③環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容 ⇒共同研究7件（実施内容は下記参照）

海外からの環境技術視察・研修受入状況

- ・海外から774人（エコタウン施設387人・エコタウン施設以外387人）の視察がありました。
- ・第16期瀋陽市環境技術研修生として、中国・瀋陽市から2人の研修生を受入れました。
- ・中国・上海市への企業ミッション団の派遣と上海市環境技術研修生（2人）の受入を行いました。
- ・中国、韓国、ベトナム、タイ、マレーシア等から環境保護の対策、循環活用システム、省エネ・省エネ技術等、先端的な取組現場を学ぶことを目的にエコタウン施設やCCかわさきエネルギーパーク等の視察に訪れています。

環境に係る国際会議・イベントの実施状況

〈川崎国際環境技術展2014の開催〉

川崎国際環境技術展では、本市の優れた環境技術・製品を展示157団体（237ブース）が出展することにより、環境分野での国際的なマッチングを実施し、環境技術の移転による国際貢献・産業の活性化を推進しています。

中国・韓国等の海外からの約170人の来場を含め合計4,500人が来場しました。

※大雪の影響のため、2日目は中止になりました。



〈アジア・太平洋エコビジネスフォーラムの開催〉

国連環境計画（UNEP）と連携し、環境への先進的な取組の情報交換、参加都市間の連携を推進しています。

環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関との連携による共同研究実施状況

- ・クラウドコンピューティングにおける環境情報サイクルの構築に向けた実証研究
- ・省電力圧電センサーシステムの医療及び福祉への応用研究
- ・環境資源の有機的連携に向けた研究
 - －持続可能なライフスタイルの選択に向けた消費者受容性・市民性・社会基盤に関する総合的研究
- ・川崎市の「人」「場所」「情報」を活用した環境・まちづくり意識の普及啓発手法の構築・実践と効果検討、及び持続的展開手法・促進方策等の提案～「エネルギーまち歩きワークショップ」プログラムをツールとして～
- ・エアロゾル複合分析計のフィールド評価
- ・直流給電方式による省エネ型電源に関する研究
- ・SBEM（ショウエネ・ペイジング・エコメカニズム）による環境負荷低減効果に関する実証研究

環境技術をテーマにした市との共同研究

環境技術産学公民連携事業は、産学公民連携による環境技術開発等の共同推進体制を構築するための研究事業です。市は、各主体に対して環境研究の場の提供や環境技術開発等の契機創出を行うことで環境技術等の研究・開発を支援し、成果を地域社会に還元するとともに、環境技術・環境研究の集積につなげることを目指しています。



←ベッドの下に電圧センサーを設置し、生体情報を感知

←高津測定局でエアロゾル複合分析計のフィールド調査を実施

